日本弁理士会 副会長
松田　正道

新支部愈々（いよいよ）動き出す
－着実な歩みへ－

今月のことば

昨年12月に北海道，東北，北陸，中国，四国の5つの支部が成立し，引き続いて今年3月に関東支部が成立しました。

そしてこれら6つの支部は，今年5月17日に施行され，その後6月から7月にかけて，順次それぞれの支部定期総会が開催され，新しい支部が本格的に動き出しました。

歴史的背景

全国支部化という発想は，古くは20年ほど前，近畿支部設立の際に登場しております。すなわち，昭和56年度支部設置促進特別委員会にて，全国支部論が主張され，昭和56年度企画委員会にて，全国的支部設置を是とするも，機の熟した地域からこれを行うべしとされ，それを受けて，昭和57年度支部設置促進特別委員会は，近畿支部設置に的を絞り，準備を開始しました。

その結果，近畿支部が誕生し，その後長らく近畿支部単独時代が続き，東海支部がほぼ10年前に誕生したに止まり，支部の展開は停滞しておりました。

ところが，3年位前から再び全国支部化が問題となり出しました。その背景には，弁理士が大量に合格し組織が大きくなって来たこと，さらに，地域経済を知財でもって活性化しよう，そのためには弁理士が地方でも十二分に活動してもらいたいという外部からの要請が起こって来たことなどがありました。

そこで，日本弁理士会は，全国支部化に向かって舵を切りました。その中で九州支部が一足先に発足し，その後，冒頭の6つの新支部の成立・施行となりました。

特色

このようにして動き出した6つの新支部を含む9つの支部は同じ支部といっても，支部会員数等にバラツキがあります。

主たる事務所について申しますと，北海道支部は16事務所で札幌にほぼ集中し，東北支部は20事務所で6県に分散し，関東支部は4,784事務所で，東京，神奈川等に集中しております。また，東海支部は409事務所で，愛知にほぼ集中し，北陸支部は26事務所で，4県にほぼ分散し，近畿支部は1,362事務所で，大阪，兵庫，京都等に集中し，中国支部は38事務所で，広島，岡山等に集中し，四国支部は17事務所で，4県にほぼ分散し，九州支部は62事務所で，福岡にほぼ集中しております。

これらの支部で，絶対数が少ない東北等小さな支部では，会務活動をする人が少なく，支部活動がおもうに任せないといった問題があります。

他方，関東支部は人数が突出して多いので，支部としては規模が大きすぎるといった意見も一部にはあります。

しかしながら，中長期的には別としても，当面は，このような人数の偏りを前提とした会務活動に成らざるを得ません。

その点で，地域知財支援活動の面では，本年度は，本部にあっては，地域知財活動本部と知的財産支援センターが中心となり，また，各支部には地域窓口責任者を配置し，これらの機関により，いわゆる知財支援ネットワークを構築し，その中で，支部で出来るものは支部にお任せし，足らざる場面では，本部が組織的にバックアップを行うことにしております。勿論本部主導のイベントも，支部の協力を得ながら実行して参ります。

本会は，この支援ネットワークによって，偏りのある支部を抱えながらも，地域知財支援活動を，きめ細かく，迅速に，そして，組織的に，日常的会務として実行していける体制を整えました。

課題

さらに，支部には色々なこれから解決すべき課題があります。

a. 支部同士の連携問題

このテーマは，支部同士の横のつながりをどうするかという問題であり，支部を越える広域的なイベントへの対処，隣接する支部の助け合い等，これからの課題です。

b. 会員問題，非弁問題

このテーマは全国統一的であるべき性質を持つ一方，地域の会員の方がアクセスしやすいという特徴があります。

今後至急詰めるべき課題です。

c. 国際活動

本年３月近畿支部は，上海における知財事情の視察のため視察団を送り込みました。支部は空間的に支部地域内の問題に対処していればよいといった枠を一歩踏み出し，国際活動も視野に入れ出しました。

ただ，国家レベルの付き合いとなると，本部が役割を果たすべきであり，本部は日本弁理士会を代表して活動するという点で，本部の役割は本質的に存在すると思います。

d. 研修

研修ではこれからｅ－ラーニングが充実していきます。このシステムが有効に機能しますと，極論すれば研修部門は本部だけでよいことにもなります。

ただ，ｅ－ラーニングの研修は，自ずから限界があります。従って，座学のよい面も併せるべきであり，その点で，支部での研修も重要であり，あるいは，支部発のｅ－ラーニングがあってもよいと思います。

e. 実務系委員会

この点については，本部と支部とのテーマの重複問題があります。

ただ，人数の少ない支部では充実した審議が出来ないという現状を考えると，本部の委員会の存在意義は大きく，また一方，身近な支部の委員会での審議は，やる気を起こさせるメリットがあり，現状では重複はやむを得ないと考えます。

終わりに

現在，新しい支部はよちよち歩きを始めたばかりであります。

その歩調も支部によって様々ですが，この歩みを着実なものとするべく，全力を挙げて取り組みたいと思います。

ご協力を宜しくお願い致します。